

vol.50-07 (通算 568号)

2020年10月号

やどかり

2020年10月15日発行
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可
発行人 公益社団法人やどかりの里
代表者 増田 一世

〒337-0043 さいたま市見沼区中川562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

URL <https://www.yadokarinosato.org/>

定価 50円(含会費)

「働きづらさ」を抱える人の「働く」を考える 共同創造のソーシャルファームづくり

日本にはさまざまな「働きづらさ」を抱えて、「働きたくても働けない」人が1,500万人以上(日本財団の就労困難者の推計調査2018年)いることをご存知だろうか。

障害により通勤が困難、家族の介護や子育てにより勤務時間が制限される、引きこもりの期間が長く働く自信がないなど、抱える「働きづらさ」は多様だ。

国の就労支援策は、障害者、母子、生活困窮者など縦割りで、複合・複雑化したニーズに対応する包括的な支援策となっていない。そのため、制度の谷間にあって、必要な支援を受けられない人が依然として取り残されたままとなってしまう大きな課題がある。

やどかりの里は、2020年1月から「誰一人取り残さない社会をめざして」を合言葉に、「未来を拓く つなぐ・つくるプロジェクト」に取り組んでいる。このプロジェクトでは、地域で暮らす人の「働きづらさ」や「生きづらさ」に焦点を当て、多様かつ柔軟な働き方を実現するためのソーシャルファームの創設を掲げている。

ソーシャルファームは、社会的課題を福祉の側面からだけでなく、ビジネスの中で解決しようとする形態である。

現在、プロジェクトでは、精神保健福祉領域に留まらず、他領域の人たちとともに、地域社会から取り残されている人たちの実態把握を進めている。そして、地域で活動する人や団体からの話題提供や視察を重ねてきた。その中で、ヤギ牧場を作りヤギレンタルによ

る除草作業や、ヤギ乳製品の加工、レストランやカフェの運営、買い物を通じて地域の交流を生み出す移動販売車の稼働、自立分散型エネルギーの構築など、さまざまな事業の可能性が見えてきた。

複数の事業を連動して行うことにより雇用の場を広げ、「働く人たちの多様性」と「働き方の多様性」を事業に活かさないかと考えている。

また、このような場ができることで、見沼の自然を生かしながら、地域で孤立しがちな人たちにとっての新たな「居場所」として、また、よろず相談や人と地域資源がつながるための交流の場としても活用する計画だ。これらを進めるにあたっては、ファイザープログラムの助成も大きな後押しになっている。

ソーシャルファームは、ヨーロッパで企業でもなく、福祉的就労の場でもない第3の雇用の場として発展している。日本ではまだソーシャルファームの形態が確立しておらず、今後新たな雇用の場の1つとなるためには、法律や予算など何らかの支援策が必要だ。また、ソーシャルファームが社会的課題の解決を目的とした雇用の場であることが広く認知され、その必要性和意義について認識されていくことも不可欠である。そのために私たちは今何をしなければならないのか。1人1人が「働きたくても働けない」人の「働きづらさ」に目を向け、その状況を変えるための方策を考え、行動することである。このプロジェクトの取り組みは、まさしくその第一歩なのだ。